



令和4年度  
戦争と平和についての  
おはなし会

【実施報告書】

魚津市役所企画政策課

# 1. 実施スケジュール



- 7月19日(火) 9:30~ 西部中学校2年生
- 7月20日(水) 10:20~ よつば小学校5年生
- 7月28日(木) 10:00~ 清流小学校6年生
- 7月29日(金) 9:00~ 星の杜小学校6年生
- 8月 5日(金) 9:00~ 星の杜小学校5年生
- 8月25日(木) 8:30~ 道下小学校6年生
- 1月24日(火) 13:50~ 経田小学校6年生
- 2月22日(水) 13:30~ 東部中学校2年生





## 2. 実施概要

- はじめに（おはなし会の趣旨を説明）
- おはなし①（東京大空襲の絵本）
- おはなし②（沖縄戦の絵本）
- おはなし③（富山大空襲の紙芝居）
- DVD視聴（「被爆の爪痕」）
- おはなし④（広島原爆詩）
- おはなし⑤（長崎の被爆体験談）
- 全員で原爆詩を朗読
- 黙とう
- おわりに（おはなし会のまとめ）

# 3. 実施の様子



① 7月19日(火) 西部中学校2年生



(左)戦時中の庶民の服装についての説明する鈴木さん  
(右)原爆詩「ヒロシマの空」を朗読する山本さん



# 3. 実施の様子



② 7月20日(水) よつば小学校5年生



(左)「富山大空襲 あの日も猛暑だった」の紙芝居をする大崎さん  
(右)広島の「被爆体験記」を朗読する岩井さん

# 3. 実施の様子



③ 7月28日(木) 清流小学校6年生



(左) 沖縄戦にまつわる絵本「へいわってすてきだね」を朗読する竹内さん  
(右) 長崎の原爆について話す櫻坂さん



# 3. 実施の様子



④ 7月29日(金) 星の杜小学校6年生



(左)長崎の原爆について話す櫻坂さん

(右)広島の原爆についての絵本「まちんと」を読む笹田さん



# 3. 実施の様子

⑤ 8月5日(金) 星の杜小学校5年生



(左) 沖縄戦にまつわる詩「こわいをして、へいわがわかった」を朗読する村上さん  
(右) 「富山大空襲 あの日も猛暑だった」の紙芝居をする鈴木さん



# 3. 実施の様子

⑥ 8月25日(木) 道下小学校6年生



(左) 沖縄戦にまつわる絵本「へいわってすてきだね」を朗読する竹内さん  
(右) 長崎の原爆について話す櫻坂さん



# 3. 実施の様子



⑦ 1月24日(火) 経田小学校6年生



(左)原爆詩「ヒロシマの空」を朗読する山岸さん

(右)沖縄戦にまつわる絵本「へいわってすてきだね」を朗読する大崎さん



# 3. 実施の様子

⑧ 2月22日(水) 東部中学校2年生



(左) 長崎の原爆について話す 櫻坂さん

(右) 戦争中の庶民の生活について説明する 鈴木さん



# 3. 実施の様子

◆戦争中に使われた日用品の資料やポスターを  
展示しました。





# 4. 児童・生徒の感想



- 戦争のことを私たちよりもよく知っていらっしゃるおはなし会の皆さんの言葉は一つ一つに重みがあり、説得力があった。当時を経験していなくとも、戦争がいかに悲惨なものかがよく理解できた。戦争をなくすためにも、これからも戦争と平和について学び考えていきたいと思う。(西部中2年生)
- 私たちが暮らす富山県でも「富山大空襲」が起こったことを初めて知り、こんな身近な場所で空襲があったことにとっても驚きました。もしも今、家族がいるところに突然爆弾が落ちてきたらと考えるととても辛くなりました。(よつば小5年生)
- 社会科や国語で原爆の話は聞いていたけど、おはなし会では初めて聞く生々しい話もあり、それまで想像していたよりずっと恐ろしいものだということがわかりました。(清流小6年生)
- 鈴木さんにもんぺや防空ずきんの説明を聞いて、どうにか自分の身を守るためにみんな必死だったということがわかり、胸が苦しくなりました。知らなかったことをたくさん知れたので、家族に今日のことを話したいと思いました。(星の杜小6年生)

# 4. 児童・生徒の感想



- DVDを見て、一発の原子爆弾で何万人もの人が亡くなり、生き残っても放射能による後遺症や差別によって今も苦しんでいる人がたくさんいることがわかった。どんな理由があろうと戦争をしてはいけない、原子爆弾の被害は日本が最初で最後になってほしいと思った。(道下小6年生)
- 櫻坂さんの話の「死んだ者が辛かったか生きている者が辛いのかわからない状態だった」という言葉が印象的だった。家族や知り合いの方との会話などを話してくださり、その方の辛さや環境について聞いたのがいい経験になった。(経田小6年生)
- 富山大空襲が起きたことを初めて知り、戦争は自分にとって他人事ではないと感じた。実際に被害に遭った方の話や言葉はとても重く感じられ、その悲しみや痛みを完全に理解することはできないけれど、戦争について関心を持ち考えを伝えることが大切だと思った。世界でたった一つの被爆国に住むひとりとして平和の心を持ち続けたい。(東部中2年生)